

総合 計画 体系	政策名	Ⅲ 地域で支えあうくらしづくり 《保健・医療・福祉》	施策主管課	長寿障がい福祉課
			施策統括課長	中島 豊
	施策名	18 高齢者福祉の充実	関係課	市民環境生活課,健康福祉総務課,地 域包括支援C,健康推進課,保健福祉 課

1. 施策の目的と指標

目的	①対象(誰、何を対象としているのか)	対象指標		単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
		実績	見込			実績	見込	実績	見込	実績	見込	
目的	65歳以上の市民	A	65歳以上の人口	人	実績	13,990	13,760	13,771				
						見込		13,960	13,965	14,048	14,197	
		B			実績							
						見込						
		C			実績							
						見込						
	②意図(どのような状態にするのか)	生きがいを 持って、いきいきと暮らす。	成果指標		%	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
			A	生きがいを 感じている 高齢者の 割合			実績	65.5	75.7	78.7		
					目標		(66)	67.0	68.0	69.0	70.0	
			B	いきいきと暮らしている 高齢者の 割合	実績	65.1	70.1	67.4				
					目標		(66)	67.0	68.0	69.0	70.0	
			C	65歳平均自立期間(男性/女性)	実績	19/22(見込)	19/22	17.5/25				
		目標		19-22	18.25-21.25	18.50-21.50	18.75-21.75	19-22				
	D	要介護認定率※認定者数/1号被保険者数	実績	16.9	18.0	18.6						
		目標		(20.3)	17.0	17.0	17.0	17.0				
成果指標設定の考え方 (成果指標設定の理由)		A)生きがいをもって暮らしているかどうかは個々の意識の問題であるため、アンケート調査で把握すべきだと考えた。B)いきいきと暮らしているかどうかは、本人ではなく、周囲の人が判断した方がより正確に把握できると考えた。C・D)生きがいをもっていきいきと暮らすことができれば、平均自立期間が伸び、介護予防にもつながると考えた。※雲南市は、前回調査では雲南市の平均寿命は山陰でトップ、全国でも上位であったため、参考指標になると考えた。										
成果指標の測定企画 (実績値の把握方法)		A)市民アンケート調査「あなたは生きがいを持って生活していますか?」「どんなことが生きがいですか?」(対象:高齢者)B)市民アンケート調査「あなたの回り的高齢者はいきいきと暮らしていると思いますか?」C)島根県保健環境科学研究所(3年に1回調査、島根県独自算出)、H18・H20は雲南保健所で参考値算出(単年の要介護者率を使い、死亡は該当年中心の5年平均、(H19とH20は4年と3年平均)D)長寿障がい福祉課(認定者数/1号被保険者数、住所地特例含む)※)厚生労働省「市区町村別生命表」→5年に1回、山陰でトップ、全国でも上位。										
目標設定とその根拠 (基本計画策定時)		A)生きがいを 感じている 高齢者の 割合について、成行値は現状で推移すると予測する。目標値は様々な対策を実施することで、最終年度で5ポイント程度上げることを目指す。毎年上昇させていくこととする。B)いきいきと暮らしている高齢者の割合について、成行値は現状で推移すると予測する。目標値は様々な対策を実施することで、最終年度で5ポイント程度上げることを目指す。毎年上昇させていくこととする。C)平均自立期間:これまでの動向を踏まえ、少しずつ伸びていくと考えられるが、様々な取り組みを進めることにより、伸び率を大きくし、毎年0.25ポイントずつの増加を目指すこととする。D)要介護認定率について、成行値はこれまでの傾向からやや上昇傾向にあると予測する。目標値は介護予防の観点から、要介護者の増加は望むものではなく、適正な認定のもと介護予防を進め、現状水準の維持とする。										

2. 基本事業の目的と指標

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
① 社会参加活動の促進	65歳以上の市民	地域とのつながりをもつ。	地域と交流があると 感じる市民の割合	%	実績	66.1	76.0	75.1			
② 自立支援とサービスの充実	施設に入所していない65歳以上の市民	いきいきと暮らす。	介護サービスを受けている 高齢者の割合・介護認定者 のうち認知症の割合	%	実績	15.9	16.9	17.3			
					実績	64.0	63.3	66.4			
③ 老人福祉施設等の充実	施設入所者	いきいきと暮らす。	老人福祉施設の入所待機者数(実数)	人	実績	674	659	724			
④					実績						
⑤					実績						

3. 施策の役割分担と状況変化

役割分担	住民(事業所、地域、団体)の役割	行政(市、県、国)の役割
①	<ul style="list-style-type: none"> ●趣味や就労への意欲を持ち続ける。 ●地域内での声かけ、見守りなど、高齢者同士の地域相互扶助のネットワークを構築する。 ●世代間交流・地域での交流活動に積極的に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●健康づくり活動、軽スポーツ等の普及活動を支援する。 ●地域相互扶助のネットワークの構築や、世代間交流・地域での交流活動を支援する。 ●就労活動を支援する。 ●高齢者の経験や技能、資格などを活かせる環境をつくる。
②	<p>A) 施策を取り巻く状況(対象や根拠法令、社会情勢等)は、今後どのように変化するか?(本年度を見越して)</p> <p>○全国的には、75歳以上の後期高齢者が大幅に増加し、少子高齢化で高齢化率は上昇する。65歳以上74歳以下の前期高齢者は微減となるが、高齢者総体としては微増。全国の後期高齢者が2025年にはピークを向かえることから、国は2025年問題として、現在少子高齢化対策を検討中(24時間訪問サービス体制・看護職員と介護職員の連携、介護従事者の人材確保、包括支援センターのマネジメント強化、高齢者専用住宅、小規模特養等整備強化の方向。)○老人クラブ会員数(新規会員)は、価値観や趣味の多様化により減少傾向である。</p>	<p>B) この施策に対して、住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?</p> <p>○在宅サービス(デイサービス、訪問介護、ショートステイ)の充実を望まれている。○介護事業所に対し、高度なサービスを求められている。○施設入所の待機期間短縮及び待機者縮減を求められている。○サロンの担い手がない。○公共交通などの移動手段の確保、充実や、高齢者の買い物困難者への対応を求められている。</p>

4. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べた成果水準)	
<input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。	<p>背景・要因</p> <p>○要介護認定率は、介護予防を重点的にやっているため、県平均と比較して低い。(県20.4%) ○老人福祉施設の入所待機者数は、724人となっており、人口規模からすると多い。(高齢者1万人あたり居宅からの待機者、松江市103人、出雲市111人、雲南広域132人) 以上を、総括的に判断すると同水準と考える。</p>

平成24年度施策マネジメントシート2(平成23年度実績の評価)

《18 高齢者福祉の充実》

4. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

時系列での比較(成果水準の推移)	
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	背景・要因 ○生きがいを感じている高齢者の割合は3.0%増加、いきいきと暮らしている高齢者の割合は2.7減少、地域と交流があると感じる割合は0.9%減少となっており、成果の状況は横ばいと判断する。

5. 施策の振り返り評価

施策の目標達成度(前年度の成果指標値に対する実績値の達成度)	
<input checked="" type="checkbox"/> 目標値より高い実績だった <input type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった <input type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった	背景・要因 ○生きがいを感じている高齢者の割合、いきいきと暮らしている高齢者の割合、いずれも目標値を達成し、地域と交流があると感じる市民の割合も75.1%と高い水準となった。 ○また、いきいきサロンの開設箇所数が増加したほか、転倒予防教室や通所型介護予防事業の充実が図られたことも影響していると考えられる。

基本事業	取り組んだ事務事業の総括(事務事業貢献度評価:貢献した事務事業、課題が残った事務事業)
① 社会参加活動の促進	・雲南市シルバー人材センター補助事業により、高齢者の社会参加を促進している。 ・高齢者いきいきサロンへの参加者が増加している。
② 自立支援とサービスの充実	・認知症地域支援体制構築事業により、認知症の正しい知識の普及・啓発に取り組み、サポーター養成や徘徊SOSネットワークを設置した。・福祉タクシー料金助成事業において、H23年度は利用できる事業者の範囲を拡大し、利用者の利便性の向上が図れた。・緊急通報システムを更新し、老朽化した機器が整備された。
③ 老人福祉施設等の充実	・小規模多機能居宅介護事業所2箇所が開設された。 ・第5期介護保険事業計画に特別養護老人ホームの70床の増床計画を盛り込んだ。
④	
⑤	

6. 今後の課題と次年度の方針(案)

区分	今後の課題	次年度の方針(案)
施策	○高齢者が、住み慣れた地域で、地域とつながりをもっていきいきと暮らせる社会を目指していく必要がある。	○高齢者の社会参加を促すとともに、地域で自立した生活ができるよう取り組んでいく。
基本事業	① 社会参加活動の促進	○地域の人材を育成・確保していく必要がある。 ○老人クラブの新規加入会員数が減少してきている。
	② 自立支援とサービスの充実	○認知症の早期発見・早期治療に取り組むとともに予防活動を行っていく必要がある。 ○地域の人材を育成・確保していく必要がある。 ○移動手段や買い物に不便を感じている高齢者の利便性を向上する必要がある。
	③ 老人福祉施設等の充実	○ニーズにあった介護サービスの充実が必要である。
	④	
	⑤	